

おうちの方へ

タイワンキドクガに気をつけましょう!!

校内でタイワンキドクガの発生が見られます。この毛虫は校内だけでなく公園や通学路等いろいろな場所にいます。接触すると毒蛾皮膚炎をおこす毛虫ですので、見つけたらさわらない・近づかないようにしましょう。

○特徴 : タイワンキドクガの幼虫は大きくなっても2cm程度で、背中のオレンジ色の線と黒いコブが特徴(写真1、2)です。雑食性ですが、クワディーサー(モモタマナ、コバテイシ)の葉で多く見られます。

○毒蛾皮膚炎の起こり方 : タイワンキドクガの幼虫は体表に毒針毛(どくしんもう)とよばれる0.1mmほどの目に見えない毛が無数にあり、幼虫に直接触れたり、風で飛んできた毒針毛に接触することで毒蛾皮膚炎を発症します(写真3)。毒針毛は幼虫だけでなく、卵、幼虫の脱皮殻、蛹、成虫(蛾)にもあり、うかつに触ると刺されます。

○症状 : かゆみや赤いブツブツなどの症状が現れます(写真3)。幼虫が皮膚に接触した直後からかゆみ、赤いブツブツなどが生じる場合と、その1~2日後にかゆみの強い紅斑や丘疹が生じる場合があります。これらの症状には個人差があり、片方だけ起こる人や、全く症状が現れない人もいます。症状が現れた時には医療機関の受診をおすすめします

○応急処置 : かゆみなどを感じても絶対に搔かないでください。搔くと毒針毛で皮膚をこすることになり、症状が広がります。まず、粘着テープをかゆい場所やその周辺に張ったりはがしたりして毒針毛を取り除きます。次に石鹸をつけてよく洗い流します。症状が軽ければ、市販の抗ヒスタミン軟膏を塗り、かゆみや赤いがひどければ、病院の皮膚科で診てもらいましょう。



写真1



写真2



写真3